



くりしま

《本園の教育目標》

- 仲良くできる子ども ○元気な子ども
- 心の豊かな子ども ○努力する子ども
- 体を鍛える子ども

[《栗島幼稚園ホームページ》](#)
[栗島幼稚園](#)
[検索](#)

『 たわむれよう、秋！ ～運動遊びの充実～ 』

園長 矢田 泰久

先月を振り返ります。9月初旬、残暑を超える猛暑が続き、熱中症対策を踏まえた保育となりました。屋外での運動発表会の練習も滞り、日程変更をさせていただきました。けれども、日々の保育の中で、園児たちはいろいろな遊びを工夫して友達とふれあいました。

3日は「789月お誕生日会」を行いました。みんなで誕生者の成長を祝い、保護者の皆様とともに喜びを共有させていただきました。改めてお誕生おめでとうございます。新しい齡、ますます背丈が伸び、知恵がつき、多くの方に愛される人へと成長しますことを願いますとともに、一緒に成長を担ってまいります。

〔 お誕生日会 〕



<うめ組(年中)>



<ちゅうりっぷ組(年少)>



<すみれ組(年中)>



<もも組(年長)>



<ひまわり組(年長)>



<たんぽぽ組(年少)>

その後、中旬からは一転、曇りや雨が続き、戸外での活動に制限が生じましたが、製作、砂場遊び、どんぐりさがしなどを楽しみました。そして、秋の趣が漂う10月を迎えました。



<製作活動(年中)>



<砂場(年少)>



～さがしたよ!～

<どんぐり拾い>



さて、3年ぶりに10月の十五夜をめで、いよいよ秋本番です。コロナ禍で内容等の変更を余儀なくされた運動会ですが、今、運動発表会に向け、園庭等でたくさん準備しています。そこには、強く動かすこと、多様な動きをしなやかに行うことなど、運動の基本の動きがたくさん入っています。そして楽しさたっぷりです。



現在、子どもの「走る・跳ぶ・投げる」といった基礎的な運動能力が35年前の1985年（昭和60年）前後をピークに低下しています（文部科学省等調査）。また、柔軟性や敏しょう性など体を制御する能力も同様です。要因に社会環境の変化、遊ぶ時間や空間、仲間が減り、遊び方も屋内で過ごすことが増えたことが挙げられています。運動遊びの減少が課題です。



その解決策に、国は「幼児期運動指針」（H24年）を示しました。幼児期の運動時間の目安として、毎日合計60分以上の運動（歩数目安1万歩）と遊びの中に多様な動きを取り込む工夫が大切にされています。本園では、できる限りの運動量の確保と多様な動きの経験と獲得を重視して保育を進めたいと思っています。

そのために、今年園全体で共通の理解と方策の徹底を図るよう園内研修を実施しています。9月16日には慶應義塾大学教授の佐々木玲子先生をお招きして「幼児期の運動遊び」について学びました。バランス感覚を獲得するための運動。移動運動と言われる片足立ち、両足でのその場跳び、片足跳びを行うことの重要性などを改めて教えていただきました。

各学年ではただ今、運動発表会の演目練習をするとともに、運動遊びに年少では「だるまさんが転んだ」、年中では「リレー遊び」「長い電車づくり」、年長では「進化じゃんけん」「二人バランス」などを通して、さまざまな動きや柔軟性の感覚などを養っています。

結びに、10月は園外保育や運動発表会、体を動かす遊びや活動をたくさん取り入れ、行事の拡大とともに、教育・保育活動の充実に努めてまいります。引き続き、保護者並びに関係する皆様にはご理解とご協力をお願い申し上げます。

【お知らせ】

- 9月30日付で、年少ちゅうりっぷ組のRちゃんが転居のため退園されました。健やかで新しい生活にも早くなれますことをお祈り申し上げます。

